

南陽図書館つうしん 2019秋号

〒455-0857 名古屋市港区秋葉一丁目 130-79

TEL: 052-301-2116 Fax: 052-301-2117

休館日: 毎週月曜日(祝日の場合は開館し、直後の平日を休館)

第3金曜日(祝日の場合は開館)、年末年始

特別整理期間【令和元年度 6月17日(月)～21日(金)】

名古屋市図書館ホームページ: <https://www.library.city.nagoya.jp>

地域の資料、探しています!



4月に南陽図書館へ異動してから、もうすぐ半年になります。実はずいぶん前に一度来館したことがあるのですが、その時の記憶とは景色がずいぶん変わっていたので驚きました。

南陽地区のことが知りたくて、初夏に図書館近くの寺社や田んぼアートを見学しました。残暑が和らいだら、また散策しようと考えています。

図書館の役割の一つに、地域に関する資料(郷土資料)を集めて、利用できるようにすることがあります。資料といっても本だけではなく、パンフレットや学校史なども含まれます。また、郷土資料は書店で入手できないものが多く、なかなか集めにくいのが実情です。

時代とともに、街はどんどん変わってゆきます。記録に残っていないものは、残念ながら忘れられてしまいます。図書館はその記録を集め、後世へ伝えていく場所でもあるのです。

南陽地区に関する資料をお持ちの方がいらっしゃいましたら、一度南陽図書館へご相談ください。(飯)

おすすめ
します!

新しく入った本の紹介



草取りにワザあり!

西尾剛/著 誠文堂新光社 (分類: 615)

タイトルコード: 1001910014136

雑草のお悩み解決! 草取り道具の使いかた、場所ごとの草取りのコツ、種類別の雑草のとりかたなど、すぐに役立ちそうです。



日本人ならおさえておきたい1分間万葉集

石井貴士/著 実業之日本社 (分類: 91112)

タイトルコード: 1001910024547

新しい元号、令和。その典拠となった部分「初春令月 氣淑風和」をはじめとして、有名な和歌などをコンパクトに解説しています。2色刷りで見やすいです。

～図書館でこんなことやってます！～

赤ちゃん向けのおはなし会拡大おしゃべりタイム

保育園のときいちゃおう！ 8月8日（木）実施

南陽図書館では、この4月から、赤ちゃん向けのおはなし会のさいごに「おしゃべりタイム」を設けました。10分足らずの短い時間ですが、子育て中のママたちのちょっとした情報交換がされています。

ときどき区役所や保健センターからゲストもお招きしており、5月にはチャイルドシートなど交通安全のお話を、6月には暑い時期の体調管理について伺いました。

8月8日は40分の拡大版。保育案内人さんと、園長先生に保育園のこと、入所の手続きのあれこれを直接きける企画です。何時から何時まで預けられるのか、対象は働いている人だけか、といった「保育園のキホン」から、見学のポイントや、最新の空き状況はいつどこに聞けばいいのか、など、申込の前に知っておきたいことをいろいろ教えてもらいました。



読み聞かせの後で、眠そうな赤ちゃんもいましたが、おもちゃで遊びながら一緒にきくことができました。

←真剣なママたち。メモを取りながら…

11月14日（木）は、「保健師さんと話そう」です。事前の申込はいりません。当日、おはなし会へ直接お越しください。



↑そもそも保育園って？

～紙と電子～

電子書籍が普及し始めてもう何年も経つ。バスや地下鉄ではタブレットやスマホで電子書籍を読んでいる人も目につく。完全に定着したといってもいいだろう。

電子書籍のメリットはなんといっても場所を取らないことだろう。紙の本は当然だが場所を食う。旅行の際何冊も本を持って行こうとすれば、カバンのスペースも食うし何より重い。それに比べ電子書籍ならスマホひとつあれば何冊も持ち運べる。家でもどれだけ持っていようと床が抜ける心配はない。気軽に読みたい人にとって、これほどありがたいことはない。

では電子書籍のデメリットは何か。最大のものは「その本がその人の所有物になるわけではない」ことだろう。

多くの電子書籍は、端末から大本のサーバにアクセスして読む。つまり電子書籍の購入代金はあくまで「アクセスする権利」に対する代金なのである。実際いくつもの電子書籍ストアが閉店となった際、ユーザーは購入したはずの本が読めなくなるということが起きている。紙の本の場合は（捨てたり売ったりしない限りは）そういうことはなく、買えば永久にその人のものである。この点について、DVDレンタルの感覚で本を読んでいる人はそれでもいいのだろうが、永く手元に置きたい人にとってはとんでもないことだろう。

紙の本と電子書籍は、現在のところは一長一短に見えるし、そうである限りは紙の本が電子書籍に駆逐されることはないだろうと思っている。（S）

